

令和 8 年度

運営に関する計画

大阪市立都島小学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 令和7年度末の小学校学力経年調査において、「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的な回答をした児童は、87.9%であった。学級での「みんな遊び」や縦割り活動、話し合い活動、行事や委員会・クラブ活動などを通して、子ども同士の交流が深まり、楽しみながら関わる姿が多くみられるようになっている。一方生活リズムの乱れなどから学校に来にくくなっている児童への配慮が課題となっている。
- 令和7年度の大阪市小学校学力経年調査において、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」に対して最も肯定的な回答をした児童は、55.6%であった。各教科でペア・グループ・全体での話し合い活動を継続的に取り入れ、ホワイトボードやICT機器を活用しながら、自分の考えを可視化し、対話を通して学びを深める授業づくりに努めてきた。今後、教科等の特質に応じた指導方法や指導体制の工夫・改善及びICT環境を効果的に用いた「個別最適な学び」「協働的な学び」を一体的に充実させ主体的に学習を調整する力の育成をめざす必要がある。
- 令和7年度末の校内調査において、「読書が好きですか」という項目に対して最も肯定的に回答をした児童は、50%である。読書に親しむ児童とそうでない児童の差が大きい。また、家庭での読書習慣の不足やICT利用の増加により、本よりも映像やパソコンを好む傾向もみられる。今後は家庭にも読書の大切さを啓発しながら読書の推進を図る。
- 令和7年度末時点の教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間は月20時間を下回っている。誰もが「働きやすさ」と「働きがい」を実感しながら自己実現できる職場環境を整えることで、教員一人一人がいきいきと子どもたちに向き合い、それぞれの熱意と専門性を発揮して、すべての子どもたちへのより良い教育の実現をめざしていく必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和11年度の小学校学力経年調査において、「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・令和11年度の不登校の在籍比率を1.65以下にする。
- ・令和11年度のパソコンや携帯電話・スマートフォン等に関する調査における「保護者との間にスマートフォン等（インターネットを通じたゲーム・動画・SNS等の利用（パソコンや携帯電話・タブレット端末を含む））を利用するときのルールはありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・令和11年度の小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 令和11年度の小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和7年度より減少させる。
- ・ 令和11年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする
- ・ 令和11年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする
- ・ 令和11年度の小学校学力経年調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」）が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ 令和11年度の小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・ 令和11年度の小学校学力経年調査における「インターネットや生成 AI、SNS 等を活用するときに、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意したりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・ 令和11年度の教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を20時間以下にする。
- ・ 令和11年度の小学校学力経年調査における「学校図書館や学級文庫、読書コーナーなど、学校など学校内にあなたの読みたい本がありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を50%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・ 小学校学力経年調査における「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。
令和8年度末の目標 本校⇒75%
令和8年度末の結果 本校⇒ %
- ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度(4.04)より減少させる。
令和8年度末の目標 本校⇒4.04%未満
令和8年度末の結果 本校⇒ %
- ・ パソコンや携帯電話・スマートフォン等に関する調査における「保護者との間にスマートフォン等（インターネットを通じたゲーム・動画・SNS 等の利用（パソコンや携帯電話・タブレット端末を含む））を利用するときのルールはありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

令和 8 年度末の目標 本校⇒ 70 %

令和 8 年度末の結果 本校⇒ %

- ・ 小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 87 % 以上にする。

令和 8 年度末の目標 本校⇒ 87 %

令和 8 年度末の結果 本校⇒ %

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 50 % 以上にする

令和 8 年度末の目標 本校⇒ 50 %

令和 8 年度末の結果 本校⇒ %

- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75 % 以上にする

令和 8 年度末の目標 本校⇒ 75 %

令和 8 年度末の結果 本校⇒ %

- ・ 3 年生から 6 年生の小学校学力経年調査で 3, 4 年生 2 教科、5, 6 年生 3 教科の平均得点で大阪市の平均を上回る。
- ・ 12 月の児童アンケートにおける「自分とほかの人の大切なところ（プライベートゾーン）を守るルールを理解し、生活の中で生かすことが大切だと思う」に対して最も肯定的に回答する児童の割合を 80 % 以上にする。

令和 8 年度末の目標 本校⇒ 80 %

令和 8 年度末の結果 本校⇒ %

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ 小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 65 % 以上にする。

令和 8 年度末の目標 本校⇒ 65 %

令和 8 年度末の結果 本校⇒ %

- ・ 小学校学力経年調査における「インターネットや生成 AI、SNS 等を活用するときに、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意したりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80 % 以上にする。

令和 8 年度末の目標 本校⇒ 80 %

令和 8 年度末の結果 本校⇒ %

- ・ 教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を 20 時間以内にするとともに、ストレスチェックの働きがい・満足度の向上に関する目標（働きがい）を前年度より高める。
- ・ 小学校学力経年調査における「学校図書館や学級文庫、読書コーナーなど、学校内に

あなたの読みたい本がありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を40%以上にする。

令和8年度末の目標 本校⇒40%

令和8年度末の結果 本校⇒ %

本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

大阪市立都島小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ・小学校学力経年調査における「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。 - 令和8年度末の目標 本校⇒75% - 令和8年度末の結果 本校⇒ % ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度（4.04）より減少させる。 - 令和8年度末の目標 本校⇒4.04%未満 - 令和8年度末の結果 本校⇒ % ・パソコンや携帯電話・スマートフォン等に関する調査における「保護者との間にスマートフォン等（インターネットを通じたゲーム・動画・SNS等の利用（パソコンや携帯電話・タブレット端末を含む））を利用するときのルールはありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。 - 令和8年度末の目標 本校⇒70% - 令和8年度末の結果 本校⇒ % ・小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。 - 令和8年度末の目標 本校⇒87% - 令和8年度末の結果 本校⇒ %	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】（いじめへの対応・児童虐待等への対応） 道徳心・社会性の涵養の基本として、他者の気持ちを考え、校内外において自分以外の人を大切に思う児童の育成に努める。		
指標	いじめ・いのちについて考える日を学期に1回設定し定期的に全校児童で考える場を設ける。児童が毎日のこころの天気の入力を習慣づけることで、児童自身が自分の心の状態を把握するとともに教職員が早期に適切に対応するようにしていく。相談申告機能の活用を進めていく。小学校学力経年調査における「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】（不登校への対応・問題行動への対応） 学級・学年での取り組みやたてわり班での活動を通して、すべての児童が学校に自分の居場所を見つけることができるようにする。登校しぶりがみられる児童についてはSCやSSW、SSRの積極的な活用を図り、物理的な教室の学習にとらわれない形で、他者や社会とのつながりを得るようにしていく。		
指標	年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。	
取組内容③【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】（安全教育の推進） 情報モラル教育や各教科の指導を通し、ICT機器の活用は自分の学習や生活を豊かに助けてくれるものであると同時にICT機器活用に潜む危険性についても学年の実態に応じてきっちりと指導していくとともに、長期休暇前の学年日よりなどを通して保護者への啓発を行っていく。		
指標	パソコンや携帯電話・スマートフォン等に関する調査における「保護者との間にスマートフォン等（インターネットを通じたゲーム・動画・SNS等の利用（パソコンや携帯電話・タブレット端末を含む））を利用するときのルールはありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。	
取組内容④【基本的な方向2、豊かな心】（インクルーシブ教育の推進） 共に学び、共に育ち、共に生きる教育を推進し、一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援をすることで学びを充実させる。		
指標	児童理解研修会を年2回実施する。 小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
次年度に向けての改善点		

大阪市立都島小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ・ 小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。 ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を50%以上にする 令和8年度末の目標 本校⇒50% 令和8年度末の結果 本校⇒ % ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする 令和8年度末の目標 本校⇒75% 令和8年度末の結果 本校⇒ % ・ 3年生から6年生の小学校学力経年調査で3，4年生2教科、5，6年生3教科の平均得点で大阪市の平均を上回る。 ・ 12月の児童アンケートにおける「自分とほかの人の大切なところ（プライベートゾーン）を守るルールを理解し、生活の中で生かすことが大切だと思う」に対して最も肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 令和8年度末の目標 本校⇒80% 令和8年度末の結果 本校⇒ %	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力向上】 学力に課題が見られる児童（区分Ⅳ）において放課後学習や個別の学習課題を設定する。ボリュームゾーン（区分Ⅱ、Ⅲ）の児童中心に探求的な学びへと授業改善をおこなうことで学力の底上げを図る。5年生以上において日本漢字能力検定、5，6年生において英検 Jr. を実施し基礎学力の定着をはかるとともに学習に対する目標意欲をもたせる。	
指標 小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。 3年生から6年生の小学校学力経年調査で3，4年生2教科、5，6年生3教科の平均得点で大阪市の平均を上回る。	
取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力向上】（主体的・対話的で深い学び）の推進 教科等の特質に応じた指導方法や指導体制の工夫・改善及び ICT 環境を効果的に用いた「個別最適な学び」と、探究的な学習や体験活動等を通じた「協働的な学び」を一体的に充実させ主体的に学習を調整する力の育成を	

はかる。	
指標 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を50%以上にする	
取組内容③【基本的な方向5、健やかな体の育成】(体力・運動能力向上のための取組の推進) なわとび活動、かけあしタイム、かけ足大会などの取り組みを進め、体力向上を進める。発達段階に応じた運動をする機会を授業や休み時間において提供する。	
指標 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることが好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。	
取組内容④【基本的な方向5、健やかな体の育成】(健康教育・食育の推進) 性に関する指導の年間計画を通じて、学校全体での共通理解を図り、各教科の教育内容を相互に関連付けた指導を行う。	
指標 12月の児童アンケートにおける「自分とほかの人の大切なところ(プライベートゾーン)を守るルールを理解し、生活の中で生かしていますか」に対して最も肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度に向けての改善点	

大阪市立都島小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 - 小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。 令和8年度末の目標 本校⇒65% 令和8年度末の結果 本校⇒ % - 小学校学力経年調査における「インターネットや生成AI、SNS等を活用するときに、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意したりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 令和8年度末の目標 本校⇒80% 令和8年度末の結果 本校⇒ % - 教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を20時間以内にとともに、ス	

トレスチェックの働きがい・満足度の向上に関する目標（働きがい）を前年度より高める。 ・ 小学校学力経年調査における「学校図書館や学級文庫、読書コーナーなど、学校内にあなたの読みたい本がありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を40%以上にする。 令和8年度末の目標 本校⇒40% 令和8年度末の結果 本校⇒ %	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】（ICTを活用した教育の推進） 様々な学習教材をクラウド上で共有し、共同編集等を活用した課題解決型学習、オンラインアンケート等を活用した授業の振り返り等、デジタル学習基盤の活用を前提とした汎用性の高い授業スタイルに取り組む。連絡帳のデジタル化、デジタル教材を活用した自主学習や家庭学習の定着、多文化共生の実現を図るツールとしての活用をすすめる。 指標 小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】（ICTを活用した教育の推進） 社会情勢の変化に対応した児童のデジタルリテラシーを育成するため、各学年実態に合わせた情報モラル教育を推進していく。インターネットを介したトラブルに対して学校全体で情報共有を図り個別の指導を行うとともに地域・家庭への啓発を進め協力を求めていく。 指標 小学校学力経年調査における「インターネットや生成AI、SNS等を活用するときに、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意したりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。	
取組内容③【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】（働き方改革） 校務支援システムのグループウェア機能活用等を通じたICTの活用による学校経営の効率化を図る。「仕事と生活の調和（ワークライフバランス）」を実現するとともに「働きやすさ」と「働きがい」を実感しながら教員一人一人が、子どもたちに向き合い、それぞれの熱意と専門性を発揮できるようにしていく。 指標 教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を20時間以内にするとともに、トレスチェックの働きがい・満足度の向上に関する目標（働きがい）を前年度より高める。	
取組内容④【基本的な方向8、生涯学習の支援】（読書活動） 読書タイムを活用したり、地域人材を活用したり、児童が読みたい本を整備したりして、図書室を効果的に活用する。 指標 小学校学力経年調査における「学校図書館や学級文庫、読書コーナーなど、学校内にあなたの読みたい本がありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を40%以上にする	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度に向けての改善点